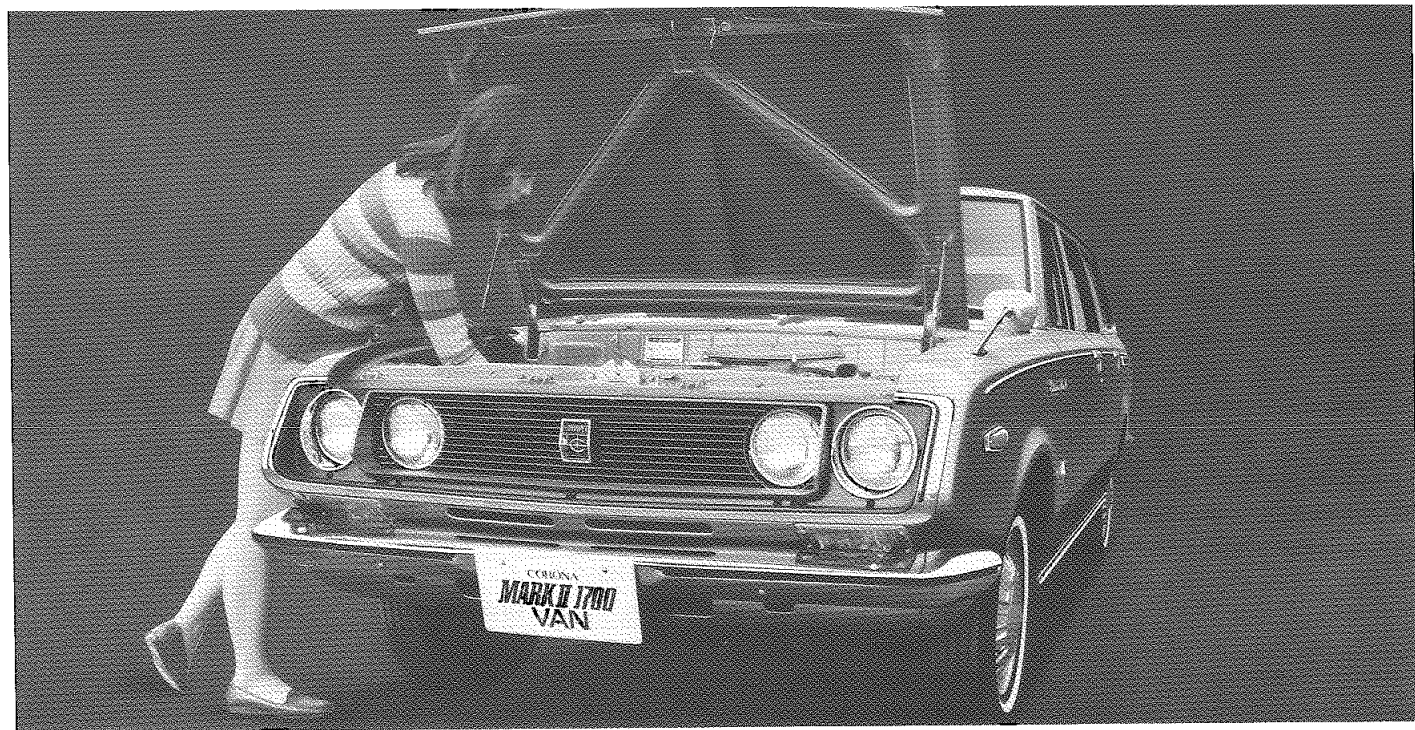


お出かけ前の点検

CORONA *MARK II* VAN・PICK-UP



■仕業点検

お出かけ前にこれだけはぜひ!!

どなたでも車を一回りすれば気軽に容易に点検ができます。

点検はムダを省き手順よく行うのがコツ。

①→②→③→の順に行ってください。

1. まずエンジン・フードを開けて
オイルの水と点検……………①
2. 次に運転席に座ってエンジン始動
各計器類を点検し、ウォーム・アップさせるがらハンドル、ブレーキなどを点検……………②
3. ヘッド・ランプをつけて車を出て周囲を一回りする間に、タイヤ、ランプ類、オイル漏れなどを点検…③～⑤
4. 再び運転席に乗り出発前に徐行させながら速度計や、ハンドル、ブレーキの作動を点検……………⑥

あなたのコロナ・マークIIをいつも快適にご使用いただくために、お出かけ前に次のことを点検してください。

項 目		点 検 内 容	
異 状 個 所		前回の悪かった所はないか。	
車 の か た む き		前・後輪のスプリングに損傷はないか。	
タ イ ヤ		空気圧は適当か。異常摩耗、損傷はないか。	
エ ン ジ ン		エンジン・オイルは規定量はいつているか。 異音は出ていないか。排気の状態は正常か。	
ラ ジ エ ー タ ー		冷却水は規定量はいつているか。	
バ ッ テ リ ー		バッテリー液は規定量はいつているか。	
ブ レ ー キ	ペ ダ ル	踏み残り代	いっぽい踏み込んだときの床とのすきまは55mm以上か
		遊 び	0.5～5mmあるか。
	液 量	規定量はいつているか。	
パーキング・ブレーキ		引き代は適当か。13ノッチ以内残り(9ノッチ)	
ステアリング・ホイール		ゆるみ、ガタはないか。遊びはハンドル円周上で50mm以内 異常に振れたり、とられたり、重くないか。	
各 ラ ン プ 類		各々のランプは点灯するか。	
各 計 器 類		作動はよいか。	
ホ ー ン		鳴るかどうか。	
ワ イ パ ー		作動は良いか。	
ミ ラ ー		後方がよく確認できるか。	
ライセンスプレート・		汚れ、損傷はないか。	

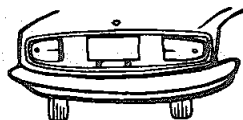
この中には、道路運送車輛法によりドライバーに義務づけられた仕業点検項目が含まれています。

④車の下をのぞいて



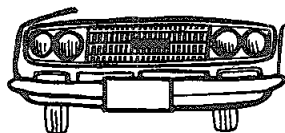
- エンジンオイル洩れ
- トランスミッションオイル洩れ
- ディファレンシャルオイル洩れ
- ブレーキ配管オイル洩れ
- ラジエータ水洩れ
- バネの折損

⑤車の後から

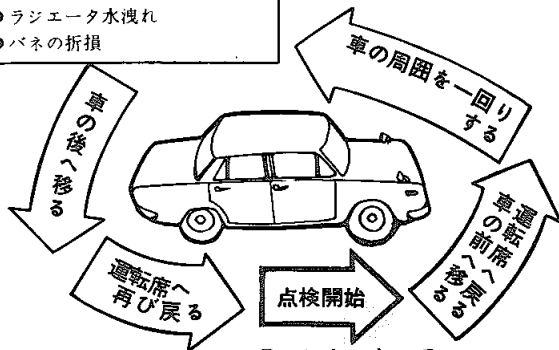


- テールランプ点灯
- ナンバープレートの汚れ
- 排気ガスの色
- タイヤ空気圧、傷、摩耗

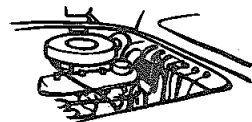
③車の前から



- ヘッドランプ点灯
- パーキングランプ点灯
- ナンバープレートの汚れ
- タイヤ空気圧、傷、摩耗

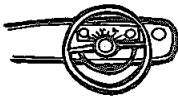


①まずエンジンフードを開けて



- エンジンオイル量・質
- ブレーキフルード量・質
- クラッチフルード量・質
- 冷却水量・質

⑥徐行しながら



- 水温計、速度計
- ハンドルの重さ
- ブレーキの効き

②運転席に座って



- 燃料計（ガソリン残量）
- 充電計、油圧計
- ターニングナルランプの点滅
- ハンドルの遊びがた
- ブレーキペダルの遊び残り代
- ワイパー、ホーン作動
- リヤビューミラー写影

（以上のほかにテールランプ、ブレーキランプバックランプの点灯の確認をしてください。）

■高速走行前の点検

高速走行前は仕業点検項目はもちろんですが、次の項目も追加点検してください。

項目	点検内容
タイヤ	石、釘その他の異物はないか。
エンジン・オイル	汚れていないか。
ラジエーター	水漏れ、フィン間にごみなどつまりはないか。
ブレーキ	走行してブレーキの片ぎきはないか。 ブレーキ・チューブおよびホースと他の部分の接触、損傷、取り付けにゆるみはないか。
ハンドル	走行してハンドルが振れたり、取られたり、または重かったりしないか。
ファン・ベルト	ファン・ベルトの張りは適正であるか。 損傷はないか。
ガソリン	目的地まで走行するのに十分はいつているか。

車外での点検

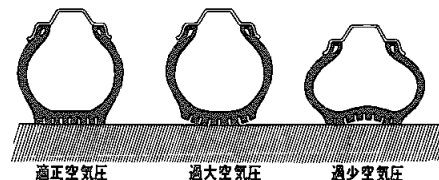
1 = 外まわり

まず、車にのる前に車のまわりを一まわりして、ボデー、ランプ、タイヤなどに異常がないかを調らべます。

2 = 下まわり

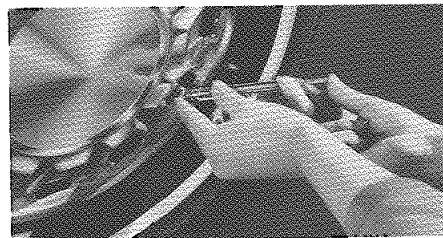
車を停めておいた地面に油とか水の漏れたあとがないか調らべます。もし漏れ等異常があると思われるときはサービス工場での点検を受けてください。

3 = タイヤの点検



タイヤの空気圧を外観より判断する目安

は図のとおりです。タイヤの空気圧は常に適正に保ってください。



空気圧はゲージで確実に適正空気圧に調整してください。

このときスペア・タイヤも少し高目に入れておきましょう。

前後左右のタイヤの摩耗が著しく異なる場合、および損傷がある場合は取扱店のサービス工場での点検を受けてください。

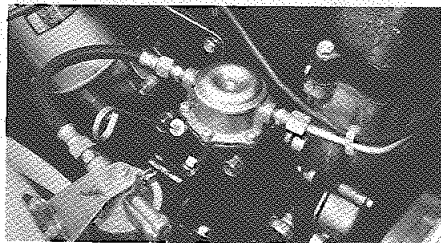
適正空気圧

	前 輪	後 輪
空 車	1.8kg/cm ²	1.8kg/cm ²
積 車	1.8kg/cm ²	3.2kg/cm ²

(100km/h以下で走行する場合は上記空気圧以上にする必要はありません。)

エンジン・ルーム内の点検

1 =エンジン・オイルの点検



エンジン・オイルの点検……レベル・ゲージを抜いて、きれいな布などでふき、次にレベル・ゲージを元の穴へいっばい差しこんで静かに抜き出してください。

このとき、先端についたオイルの位置を読んでください。

オイルがFとLとの間にあれば良く、L以下のときはFまで補給してください。

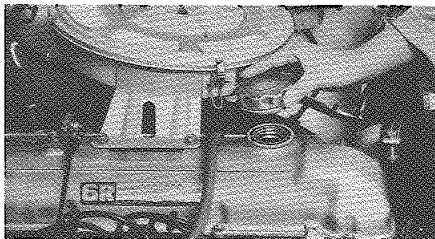
《注意》

ゲージを抜きとるとき、先端部が穴に当たると、ゲージについたオイルの量が狂い

ますので、穴に当たらないように抜きとってください。



エンジン・オイルの補給



左にまわしてははずします。

オイル・パン容量……4.1ℓ(6R)
3.5ℓ(2R)

エンジン・オイルは、キャッスル・モーター・オイル・スペシャル以上をお使いください。

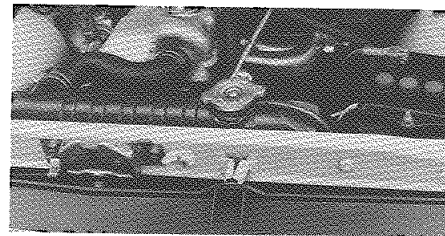
《注意》

1. オイルを補給したあと、どれだけあ

るか必ずオイル・レベル・ゲージで確認してください。

2. オイルはできる限り同じ銘柄のものを補給してください。

2 =冷却水の点検



点検と補給……ラジエーター・キャップは左に約90°まわすとはずれます。口元から約20mm以下のときは、きれいな水を入れてください。

しめるときは、キャップ裏側の爪を切りかきに合わせてはめ、押さえながら右に止まるまでまわしてください。

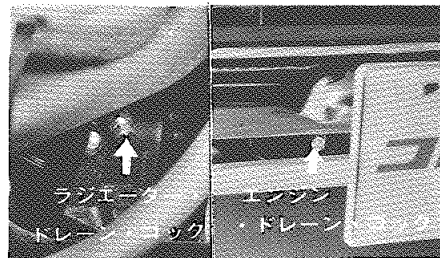
なお、ラジエーターの水は、口元までいっばい補給すると運転したあと水がすこ

し減りますが、これは故障ではありません。ある程度減るとそれ以上減りません。

冷却水容量……………7.4ℓ

◀注意▶

エンジンの冷却水温度が高いときは、危険ですから、エンジンが冷えるまで、キャップをあけないでください。



③ 不凍液

冬期には、ラジエーターに不凍液を入れてください。冷却水が凍ると、ラジエーターや、エンジンを破損することがあります。

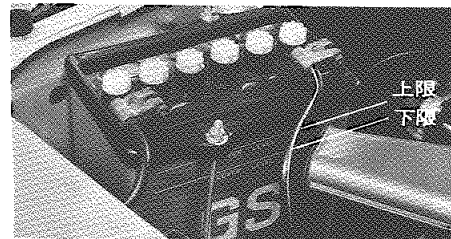
不凍液を入れる量によって、冷却水の凍る温度が変わります。キャッスル不凍液の場合は次表のとおりです。

凍結防止温度℃	-5°	-10°	-15°	-20°	-25°	-30°
混入量ℓ	0.9	1.7	2.3	2.7	3.1	3.4

不凍液の注入は次のように行ないます。

1. ラジエーターおよびエンジンのドレイン・コックを左にまわして外し、冷却水を抜きます。
 2. 水道の水を出したままにして、ラジエーターおよびエンジン内を洗滌します。
 3. ラジエーターおよびエンジンのドレイン・コックをしめつけます。
 4. ラジエーターに適当量の不凍液を入れ、きれいな水を満たします。
- 暖かい季節になり凍結の心配がなくなったら、不凍液を抜き、ラジエーターおよびエンジンを洗滌してきれいな水を入れてください。

■ バッテリー液の点検



バッテリーの中の電解液は使っているうちに蒸発して減ります。バッテリー・ケースは半透明になっていますので液量は外からわかります。

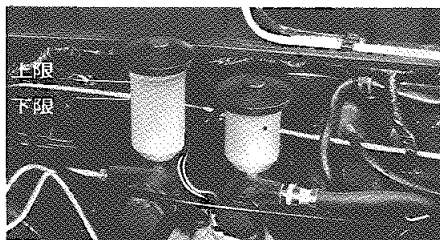
液面はUPPER LEVELとLOWER LEVELの間であればよく、少ないときはUPPER LEVELまで蒸りゅう水を入れてください。

キャップは左にまわすとはずれます。

《注意》

1. 液は必ず蒸りゆう水を使ってください。
2. 電解液は希硫酸のため衣服につくとポロポロになって穴があきます。
3. キャップには、通気孔があげてありますので目づまりのないように注意してください。
4. ターミナル部がゆるんでいたら、締付けてください。
5. ターミナル部に白い粉が付いていたときは湯で清掃し、グリースまたはワセリンを塗布してください。

4 = ブレーキとクラッチのフルード



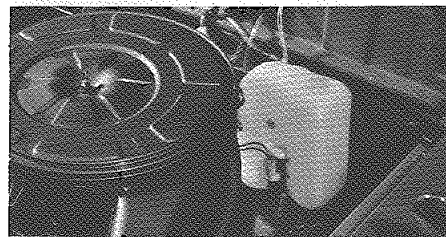
《注意》

1. ブレーキ・フルードは、トヨタ純正ブレーキ・フルード（グリコール2000）を補給してください。銘柄の違ったフルードを使用しますと、フルードの性能が低下し危険です。
フルードの量は、外側から点検できます。フルードは、タンクに $\frac{3}{4}$ 入っていれば良好です。もし少ない場合はタンクの上限までトヨタ純正・ブレーキ・フルード（グリコール2000）を補給してください。万一、フルードの減り方が著しいときはサービス工場にご連絡ください。
2. 補給のとき、ゴミがタンクの中に入

らないよう注意してください。小さなゴミでもフルードに混じると、ブレーキやクラッチが効かなくなり危険です。

3. タンクの上面には通気孔があげてありますので、目づまりのないように注意してください。

5 = ウォッシャーの液

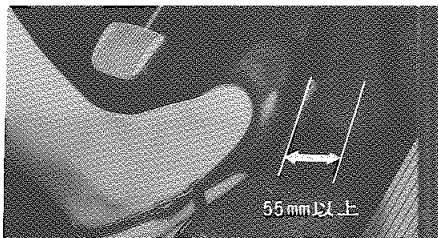


ウォッシャー液が空のままモーターを回しますとモーターがこわれることがありますので常に規定のレベルまで補給しておきましょう。

寒冷時には液が凍結し、タンク等を破損することがありますので、凍らず洗滌力のすぐれたトヨタ ウィンドウ・ウォッシャー・フルードをご使用ください。

車内での点検

1 = ブレーキの点検



1. フット・ブレーキの点検

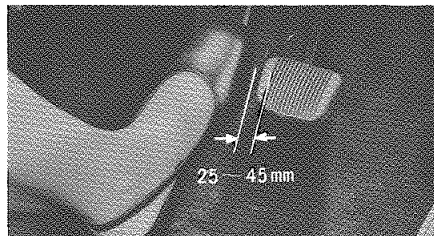
ブレーキ・ペダルをいっぱい踏みこんだとき、ペダルと床との間が55mm以上あれば異常ありません。しかしこの踏み残りしろがおかしいときは、サービス工場へ連絡してください。

2. パーキング・ブレーキの点検

パーキング・ブレーキは、効きはじめてからカチカチと音がし、13ノッチ以内が正規です。不具合のあった場合は取扱い店のサービス工場へ点検を受け

てください。

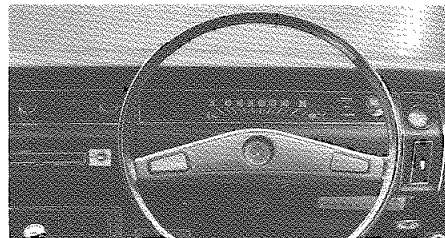
2 = クラッチ・ペダルの点検



ペダルを踏んで、はじめの25～45mm位はほとんど抵抗なく、その後、抵抗を感じながらいっぱい踏みこめるときは、正常です。

始めからペダルが重いとき、または、抵抗なく踏めるときは、サービス工場へ連絡してください。

3 = ステアリング・ホイール



ホイールを指先で軽く左右に抵抗を感じるまでまわしてみて、握りのところ（外周）で50mm以内が正規の遊びです。

遊びが多いとき、何か異状が感じられたときは、早目にサービス工場へ連絡してください。

4 = 計器類、ランプ類の点検

計器類……エンジン・スイッチをONにして、各インジケータ・ランプが点灯するが確認します。

エンジンを始動して、各警告灯、ゲージが作動するか確認します。

ターン・シグナル・ランプ……エンジン

・スイッチをONにして左右同じ早さで点滅するかを点検します。

万一異常があり、ヒューズ、ランプ類などを点検し、なおらない場合にはサービス工場へ連絡してください。

(セルフ・サービスのしかた48頁を見てください。)

ストップ・ランプ……ブレーキ・ペダル
を踏んで点灯することを確認する。

バック・アップ・ランプ……エンジン・
スイッチをONにし、シフト・レバーをRの位置にして、バック・アップ・ランプが点灯することを確認します。

エンジンの点検

ホーンの音が正常なことを確認します。

ワイパー

ワイパーが正常に動くことを確認します。

(フロント・ガラスの汚れ、ホコリを取り除いて行ないます。)

リヤ・ビュー・ミラー

運転する姿勢で後方がはっきり見えることを確認します。

ライセンス・プレート

汚れ、損傷のないことを確認します。

エンジンの音を聞く

エンジンがまわっているとき、キーキー音、金属的なコンコン音など異常のある場合は、サービス工場で点検を受けてください。

■ 徐行しながら

計器類の点検

スピード・メーターおよびヒート・ゲージが正常に作動することを確認します。

ブレーキの効き

ブレーキをかけてみて片効きのないことを確認します。

ハンドルの重さ

走行しながらハンドルの振れたり、取られたり、または重かったりしないことを確認します。